

つくばみらい 相談事例

高齢者の家庭内事故

高齢者が、家庭内事故で亡くなるケースが多いと聞きましたが、どのようなことに注意が必要ですか？

統計によると、家庭内事故の死亡者数は、平成 21 年 12,873 人・平成 22 年 14,249 人でした。これに比べ交通事故の死亡者数は、平成 21 年 7,309 人・平成 22 年 7,222 人でしたので、**家庭内事故の死亡者数の方が多い**ことが分かります。

特に高齢者については、熱傷で死亡に至ってしまったケースや、死亡に至らなくても「**転倒**」がきっかけとなった重症例が多くなっています。

では、家庭内事故を防ぐポイントについてご紹介します。

- < 居室など > 手すりを付ける・足元を明るくする・**踏み台が必要となるような高所に物を置かない**
- < 台所 > **安全装置付の調理器具を使う**・袖やすその広がらない衣服を着用する・動作はゆっくりと細心の注意を払って行う
- < 浴室 > 脱衣所と浴室の温度差をなくす・使う湯の温度は熱くなり過ぎないようにする・**すべらない工夫をする**

高齢者の家庭内事故を防ぐためには、安全性の高い製品や、ユニバーサルデザインのものを選ぶことが大切です。また、普段から体を動かすようにして、バランス機能や体力の維持にも気をつけましょう。

* 資料：厚生労働省「人口動態調査（確定数）」